

国指定
20周年

参加費
無料

申込
不要

く る べ かん が
久留倍官衙遺跡
国指定20周年記念
シンポジウム

日 時

令和8年 9月5日 土

13:30~17:00 (13:00開場)

場 所

四日市地域総合会館
あさけプラザ ホール

〒510-8028 四日市市下之宮町296-1

※手話通訳・要約筆記あり

●13:00 開場

●13:30 開会

事例報告

13:40 『久留倍官衙遺跡の
整備と活用について』
大原 涼子
(くるべ古代歴史館 職員)

13:55 『斎宮跡の整備と活用について』
乾 哲也 氏
(明和町 職員)



パネルディスカッション

15:50

『久留倍官衙遺跡の果たした役割とは、
そしてこれから』

[登壇者] 倉本 一宏 氏、長 直信 氏、乾 哲也 氏、
中村 雄一 氏(四日市市大矢知地区連合自治会長)
大原 涼子

[コーディネーター] 文化課 職員

17:00 閉会

基調講演

14:10 『史跡と地域』
長 直信 氏 (文化庁 文化財調査官)

14:50 『久留倍官衙遺跡と壬申の乱』
倉本 一宏 氏 (国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学 名誉教授)



最寄り駅

近鉄名古屋線 近鉄富田駅から徒歩約15分
JR関西本線 JR富田駅から徒歩約22分

■主催・問い合わせ先： 四日市市シティプロモーション部 文化課 (電話059-354-8240)
くるべ古代歴史館 (電話059-365-2277)



久留倍官衙遺跡公園 HP



久留倍官衙遺跡公式 X



久留倍官衙遺跡公式インスタグラム

久留倍官衙遺跡とは

久留倍官衙遺跡は、飛鳥時代から平安時代まで続いた古代の伊勢国朝明郡の役所跡と考えられている遺跡です。古代の交通の要衝と考えられており、そのため「壬申の乱」の大海人皇子の進軍ルートや、「聖武天皇の東国行幸」の際に立ち寄った候補地となっています。

久留倍官衙遺跡は北勢バイパスの建設を契機に行った発掘調査で発見され、重要な史跡であるとして国指定となり、今年で20年を迎えます。

シンポジウムでは、久留倍官衙遺跡の歴史をふりかえるとともに、史跡としてのこれからについて語り合います。



くるべ古代歴史館

開館時間：午前9時～午後5時(最終入館午後4時半)

休館日：月曜日・火曜日(祝日の場合は、休館日でない翌平日)

入館料：無料

講師プロフィール



くらもと かずひろ
倉本 一宏 氏

(国際日本文化研究センター・
総合研究大学院大学 名誉教授)

1958年、三重県津市生まれ。東京大学文学部国史学専修課程卒業。同大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程修了。1997年、「日本古代国家成立期の政権構造」で東京大学より博士(文学)の学位を取得。2009年、国際日本文化研究センター(日文研)教授、総合研究大学院大学(総研大)教授。2024年、定年退職、日文研・総研大名誉教授。
主な著書：『一条天皇』(吉川弘文館 2003年)、『壬申の乱』(吉川弘文館 2007年)、『壬申の乱を歩く』(吉川弘文館 2007年、文庫版『壬申の乱』角川ソフィア文庫 2025年)、『蘇我氏』(中公新書 2015年)、『戦争の日本古代史』(講談社現代新書 2017年)、『藤原氏』(中公新書 2017年)、『内戦の日本古代史』(講談社現代新書 2018年)、など計68冊。今年度、あと2冊(『平安時代の武士』『藤原仲麻呂』)刊行予定。

主な活動

2011年	ご進講「一条天皇のご事蹟」を行う。
2011～2013年	文部科学省日本ユネスコ国内委員会ユネスコ記憶遺産推薦書作成ワーキンググループ委員として『御堂関白記』の“memory of the world”(『世界の記憶』)を推薦する。
2024年	大河ドラマ「光る君へ」の時代考証を担当する。
2026年	春日大社国宝殿前の「御堂関白記」歌碑を監修する。



ちよう なお のぶ
長 直信 氏

(文化庁 文化資源政策・
記念物課 文化財調査官)

福岡県太宰府市出身。福岡大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程前期修了。福岡県太宰府市教育委員会文化財課嘱託職員、大分県大分市教育委員会文化財課職員を経て2022年より現職。専門分野は飛鳥・奈良時代の土器・官衙・集落研究、中世土器の研究。

主な活動

2014年	「九州における長舎の出現と展開—7世紀代を中心に—」『奈良文化財研究所第17回古代官衙・集落研究会 長舎と官衙の建物配置』(独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所編)
2018年	「大友氏館跡出土の土器と権力—その様相と特質—」『戦国大名大友氏の館と権力』(吉川弘文館)
2025年	「豊前・豊後における古代集落の構造と変遷」『奈良文化財研究所第28回古代官衙・集落研究会 古代集落の構造と変遷5』(独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所編) など